



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢6342-4 URL : www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

センターの研究成果の一部を発表しました(その2)・・・	1
令和元年度 チーム課題研究の要旨・・・・・・・・・・	2
令和2年度総合教育センター事業の重点と概要・・・・・・・・	4

センターの研究成果の一部を発表しました(その2)

1月21日に行われた『学びの改革フォーラムながの』で二つの研究発表をさせていただきました。前号に続いて今回は、「**小学校プログラミング教育～授業の実践と学校での活用のポイント～**」の発表の概要と、いただいた感想をご紹介します。



＜発表の概要＞

プログラミングを各教科等の学習活動の中に取り入れることで、

①「**学んでいるものの構造**」が見える

② **自分の考えに自信を深める**

③ **子どもが「主体的な学び」を進められる**

という点で、**教科の学びを充実させることに有効である**ことが分かりました。

＜いただいた感想から＞

- ・プログラミングの公倍数の実践、子どもの学びぶりがとてもステキに伝わってきました。
- ・プログラミングの実践発表、大変参考になりました。
- ・プログラミング教育での5年算数の事例がとてもよかったです。授業に取り入れるモデルになります。
- ・プログラミング、具体的な授業の様子を教えていただき分かりやすかったです。

令和元年度 チーム課題研究の要旨（その1）



総合教育センターでは研究調査事業として、学校における教育活動の充実・向上や教育の諸問題の解決を支援するため、研究調査を行っています。この一環として今年度も6チームによる研究が実施されました。

課題A 希望研修の学びを学校づくりに活用する支援のあり方

希望研修で得た成果を、受講者が帰校後、同僚に広めることで研修の成果が広がっていくことが期待されるが、実際は校内で広がるような実践に至っていない現状がある。そこで、研修で学んだことが学校で実践され、成果が生み出される（この状態を「研修転移」と呼ぶ）が起きるための支援のあり方を、小学校のニーズが高い外国語を切り口に探った。その結果「研修転移」が起きるには、①管理職の理解と後押し、②職場で使える研修内容、③学んだ内容を実践する機会、④子どもの実態等に合わせた研修内容のアレンジ、の4つが大切な要因であるということが分かった。

課題B 小学校プログラミング教育

～プログラミングを学習活動に

取り入れる意味を考える～

2020年度からの小学校プログラミング教育実施に向け、各学校では少しずつ研修も広まり、プログラミング体験をしたことがある教員が増えてきている。一方で、何のためにプログラミング教育を行うのか、取り入れる必要性についての理解が十分に深まっていない現状もうかがえる。そこで、本研究ではプログラミングを学習活動に取り入れる意味について考えた。その結果、プログラミングを授業の中で活用することが、「学んでいるものの構造が見える」「自分の考えに自信を深める」「子どもの主体的な学びを支える」という点で、教科の学びを充実させることに有効であることが見えてきた。

課題C 信州型UDカードの活用のアイデア

長野県教育委員会は、全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりの基盤となる内容を県内の先生方と共に創り上げていくことを目的に、信州型ユニバーサルデザイン（以下「UD」と略す）を作成し、それに基づく校内研修ツールとして、信州型UDカードを開発した。本研究では、この信州型UDカードの活用方法について、総合教育センターの研修講座や学校現場において本カードを用いた研修を実施し、研究した。その成果として、いくつかの活用方法を提案する。

令和元年度 チーム課題研究の要旨 (その2)



Click!

3月下旬に研究のまとめと資料をセンターホームページにアップロードします。



課題D 探究的な学びに焦点を当てた カリキュラム・マネジメント

～校内研修プランの開発～

カリキュラム・マネジメントとは、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくこと」（総則第1章第1の4）である。本研究では、研究協力校等におけるカリキュラム・マネジメントの校内研修の実践を基に、効果的なワークシートの活用方法を検討し、校内研修のモデルとなるプランを作成した。

課題E 子どもを支えるために

～子どもを共に支える保護者と
学校のよりよい関係づくり～

生徒指導・特別支援教育部では、子どもを支えるために、保護者と学校、関係機関等を「つなぐ」教育相談を行っている。本来、保護者と学校は共に子どもを支える関係であるが、本年度の相談では両者の意識や子どもの捉えにずれがあることが多かった。そこで本研究では、教育相談の実際から課題解決のポイントの分析を行い、両者の意識や捉えのずれの原因とその解消に向けての方法を探った。その結果、意識や捉えのずれの原因の多くには「丁寧な対応」と「共通理解」の不足が見えてきた。そこで、保護者と学校が子どもを共に支えるよりよい関係をつくるために、校内で使える「丁寧な対応」「共通理解」に向けたロールプレイング研修や校内連携マップの整理、記録シートの開発を行った。

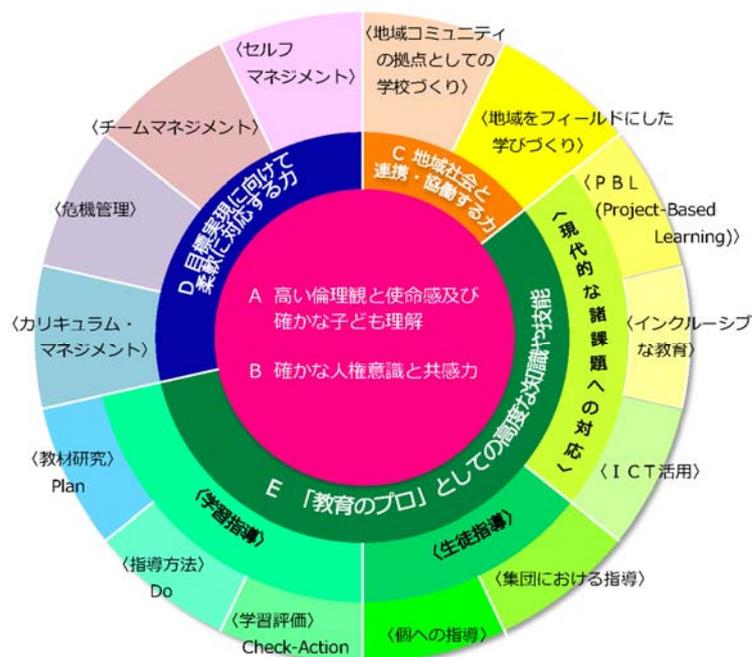
課題F ICT活用と推進につながる教員研修

～具体場面の
イメージづくりを支援～

本県はICT活用指導力を高める研修を受講する教員が増えている一方、ICT活用指導力は全国平均に比べ高くない。そこで、研修受講がICT活用指導力の向上につながるよう研修講座の見直しを図ることとした。さらに研修の受講者からその成果が校内に広がっていく手立てとして、校内研修を行う必要があると考えその支援のあり方を探った。受講者が活用してみようと実践に一步踏み出すためには、研修の中で「ICTを活用する具体的な活用のイメージをもつことができたか」がポイントであることが分かった。また、ICT活用を推進するために行う校内研修の支援のあり方が見えてきた。

長野県教員育成指標に基づく、教員の資質能力の育成

長野県教員育成指標
～長野県の教員に求められる5つの資質能力(A～E)とこれらを支える14のスキル～



研修

- ◆子どもの深い学びにつなぐ、教員のキャリアステージに応じた指定研修
- ◆児童生徒の資質・能力の育成に向け、教師力・授業力の向上を図る希望研修
- ◆研修講座での学びを学校力の向上へつなぐ支援
 - ・センター研修講座を受講された先生が帰校後、講師となって行う校内等の研修会を専門主事が支援する「教職員研修会サポート」

生徒実習

- ◆応用的・先進的な教材や、ICT・産業用機器を用いた学習の場の提供

研究調査

- ◆教育課題の研究調査
 - ・教育改革と、学校現場での実践をつなぐ研究調査
 - 研究テーマ:「探究的な見方・考え方」を働かせて育む資質・能力に関する調査研究
- ◆教職員の養成・研修に関する研究調査
 - ・県内外教員養成系大学(学部・大学院)との連携
 - ・県内外教育機関等との連携

教育情報の提供

- ◆ホームページや電子メールによる情報発信
 - ・「学びの広場」… 児童・生徒の学習に役立つ様々な問題や学力向上に関わる情報を掲載
 - ・研修会サポートコンテンツ… 校内研修や各種研修会で使える資料を掲載
 - ・センター通信「しののめ」… 最新情報や校内研修で使える資料を配信

教育相談

- ◆子どもの健やかな成長と発達を願う教育相談 … 児童生徒、保護者、教職員の相談に対応
- ◆学校の課題や授業づくりについての教育相談 … 教職員の相談に対応